

# 早良区少年愛護パトロール員だより

～地域の安全・安心のために、協力してパトロールでの声かけをお願いします～

平成31年2月21日/編集・発行 地域支援課振興係



残すところあと1か月余りとなりました。少年愛護パトロール員の皆様、日々のパトロール活動ありがとうございます。

年間の活動の振り返りと残りの活動のさらなる充実を目的に、最後の研修を行いました。

## 1 第3回 早良区少年愛護パトロール員研修会

日時・場所 平成31年1月30日(水) 早良市民センター  
講師 NPO 法人箱崎自由学舎 ESPERANZA 代表 小田 哲也さん  
演題 『悩める子ども達』 ～大人たちはどう関わるか～



### ○不登校(1年間に30日以上理由もなく欠席すること)の現状

- ・福岡県の小学生の不登校者数は、1,000人当たり約4人。
- ・福岡県の中学生の不登校者数は、1,000人当たり約30人。



### ○「不登校といじめ」子どもの話を聴く大切さについて

いじめは不登校の要因。把握できた時点の初動が大切。いじめられた子は勇気を出してSOSを発している。“いじめられないよう、もっとしっかり!”ではなく、訴えを聴き、受け止め、原因と一緒に探る真摯な姿勢が重要。

### ○子どもとの接し方(どんな時に話が進むのか?)

その子の本当に好きで得意なことが認められれば、自己肯定感が高まり、その子の可能性も広がっていくはず。嫌いなこと・苦手なことではコミュニケーションは深まらない。

例えば、ゲームの話などは、大人の価値観で遮っていることが多いのでは。その子の長所を見極め、そこを伸ばしていくように心がけたい。

### ○まずは子どもの話を聴いてほしい

子どもにとって、愛情を感じとれることは大きい。話をしっかりと「聴いて、受け入れ」不安な環境に子どもを置かないこと。

### ○箱崎自由学舎エスペランサの考え

不登校の生徒の居場所(支援)を14年間してきて、不登校の子どもに共通することは、  
⇒「自分なんて役に立たない、ダメな人間と思ひこみ、自尊感情が非常に低い」こと

自信を失った子どもの自尊感情を高めるため、彼らを認め続け、褒め続ける。地域の子どもたちにもいろいろな活動を通して「すごいね」という言葉かけをお願いしたい。もちろん悪いことをしたら厳しく指導しなければならない。

## ○すべてを任せると、いろんな可能性を探し始める（大人がその可能性を摘んでいないか？）

毎月1回「クッキングデー」を開催して、子どもにすべてを委ね、とことん話し合わせ・考えさせ、作りたいものを自由に作らせている。すべてを任せると、様々な可能性を探し始める。

ある時、オムライスを作るのに「ケチャップと鶏肉がない」と騒いでいたが、放っておいたところ、工夫を凝らし、オムライスの固定観念に捉われない独創的な絶品「あんかけ豚オムライス」ができた。

失敗してもいい！任せられることで「認められている」と感じ、自分で物を作りあげる自信ができる。

## ○子どもに地域の多くの人と関わる機会を！

「学校や家庭だけ」の世界で過ごしても可能性は広がらない、そこで地域の出番が必要になる。地域の様々な活動の中で子どもに色々な話をしてほしい。厳しい人も「いいやんねえ、それぐらい」と言ってくれる寛容な人も必要。学校行事にも参加して子どもと地域活動を繋げてもらえば、子どもは様々な視野を持って考え、行動できるようになる。

エスペランサでも、落語家、看護師・銀行マン、屋台経営者な様々な方を招き話を聴く機会を提供している。また、多くの体験を積ませ、子どもの変わるきっかけづくりに努めている（例：イチゴ狩り、陶芸体験、福岡国際マラソンのボランティアなど）

## ○大人が本気で関われば子どもは変わる！（ある少年の例）

自信を無くして不登校だったある少年は、エスペランサに来た当初、全く表情がなかった。ある夏のこと、初めて「みかん狩り」に行った時、木に登り夏みかんをちぎり、体中にいっぱい傷をつけて降りてきた。「木にいっぱい登って、傷だらけで帰ってきますよ」と母親に伝えたところ、「えっ、うちの子が！」と母親も喜んだ。このことがきっかけで少しずつ自信を取り戻し、笑顔も少しずつ出るようになった。その後、大学に進学し途中で辞めて、専門学校で資格を取り、最終的に自立することができた。

## ○子育ては米作りと同じ（初めはしっかり手をかける）

エスペランサには、耕さない・肥料やらない「自然農形式」の米づくり体験がある。足ふみ脱穀、唐箕（とうみ）作業中に「きついね～」と言い合いながら一緒に作業をする。効率重視の世の中にあって、ゆっくり、無駄っぽいように見えるが、本音が聴ける大切な時間。

作業後は、おいしさや一緒に作業をした連帯感などもあって、よく食べる。いつかこの体験が役立つときが来ればと願っている。

地域の方に手伝ってもらい、できたお米で「餅つき大会」をする。ついたり、丸め方を教わったり地域と触れ合い「大事にされている」という気づきにもつながっている。

米作りはある程度まで稲と雑草の闘い。除草が必要。子どもも、強く育つためには、小学生までは、手をかける必要がある。朝ごはんやお弁当はできる限り、手をかけて作ってあげて。お弁当の中身を通してどれだけ手をかけてくれているかを子どもはよく見ている。

中学生からは主体性を尊重し、自身で成長していく「力」を養わないといけない。米作りに例えるなら“雑草と闘わせる”といったところ。

## ○貧困のため、犯罪に走ることもあるコロンビアの子どもは幸せか？（少年院の支援で気づいたこと）

→もちろん（経済的には）不幸せ。では金銭的に満足すればそれでいいか？→恵まれない環境でも、コロンビアでは、子どもたちが、多くの人から優しさや厳しさをしっかり受け取っており、ある意味で生きる力が感じ取れる。目が輝いている。

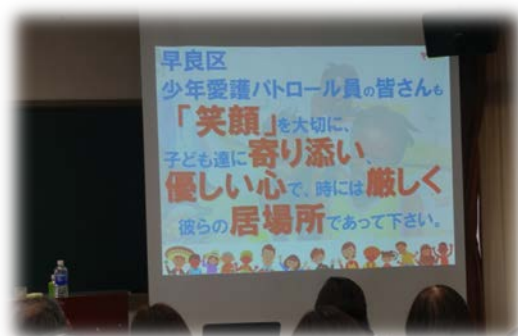
## ○エスぺランサの取り組みのまとめ

- ① 自分で考える機会を提供する
- ② 多くの人の話を聴き、考える時間をつくる
- ③ 多様性を尊重する
- ④ 様々な活動（体験の機会）を通して、社会性や社会への適応力を養う
- ⑤ 「ありがとう」で自分の存在
- ⑥ 1対1学習支援で基礎学力を付け、自信を持たせる（やればできる）！

## ○子どもと接するにあたって大切にしてほしいこと（まとめ）

- ① しっかり聞く
- ② おしつけない
- ③ 共感する
- ④ 知らないことを認める
- ⑤ 威厳を持つ
- ⑥ とにかく信じて任せる！

少年愛護パトロール員の皆さんも、「笑顔」を大切に、子どもたちに寄り添い、優しい心で、時には厳しく子どもたちの心の居場所であって下さい。一人ひとりの「個性」を大切に、皆さんの笑顔で満ちた世界になることを祈って！



## 2 講演を聴いての感想

- 物質的に恵まれている日本に住んでいるからこそ、精神的な貧困が生まれているような気がします。与えるもの（塾や習い事等）が多すぎて、それが精神的な負担につながっているのかも。自分がやりたい事や夢もかえて持ちづらい世の中なのかもしれません。でもその中でも子どもが生まれてきた喜びや幸福を感じてくれればと思って講話を聴きました。
- 乳幼児から高校・大学生の子どもと関わることが多いので、その年齢に応じた関わりを考えるきっかけになりました。保護者との関わりも今、非常に難しく、その点の話も聞きたいです。
- 自分では「信じている」と思っているけど任せきれていない所が多くあり、それは全てを信じきれていない、子どもの考える力、責任感を持つということを奪っていたかもしれないと反省しました
- 周りに不登校の生徒が多くいます。どのお母さんも、しかるべきところに相談に行ったり、模索しながら子どもと向き合っていますが、本日のお話を聴けてハッとしました。皆けっこう「子どもを刺激しない」「子どものやりたいように」「子どもの言いなりにしている」ところが多いです。（そのようにアドバイスもされていたりするので）“威厳を持つ”“信じる”これがとても大切だと感じました。今日の講話は今悩んでいる友人に聞いてもらいたい内容でした。
- 親として、子どもにいつも言いすぎる、手を出しすぎる人が多いので、成長とともに「任せる」ことを大事にしたいと思いました。
- 不登校の子供たちが増えていることを身近に感じながら自分の子ども達も、もし不登校になったらと考えることがあります。様々な経験や知識を身に付けて、自信を持たせること。また自ら考え行動できるように育てていきたいと思いました。
- 不登校の子どもは本当に増えていて、親がどれだけ不安に思うか…。子どもが一人で歩いて行ける場所にエスペランサのような場所が欲しいと思いました。
- 子育てしていて、信じて任せる事の大切はわかっているけど難しく、改めて反省です。地域の方と「学習支援の大切さ」を話していた所だったので、さらに必要性を感じる事が出来ました。
- 自分の意見を相手が理解していないと“いかり”の気持ちが出る。という経験は皆さんあると思います。「相手が知らない」と気づいて心を開くことが大事なのだとおもいます。子どもにきちんとさせようと育ててきましたが反省し、余裕の気持ちで接したいと思います
- 相手を理解すること「いかりを」をもたず、距離や時間をかけて接していこうと改めて感じた。いつも笑顔でというのが一番難しい、一つでも心の居場所としてなれればと思う。
- 不登校の子どもが真面目でずっと頑張ってきて、コップの中の水が少しずつなくなってきて頑張るエネルギーがなくなってしまった。時間と自信を与えて欲しいという言葉が印象に残りました。
- お米作りと子育てが同じで良くわかりました。
- 子どもたちとしっかりと向き合う事が大切だと思いました。なかなか自分も忙しくてちゃんと接していなかった事もあるので、子どもの心をしっかりと感じてあげられるようになりたいと思いました。
- 「理解」とはと問われて考え込んでしまいました。小田先生がひらがなで「りかい」さらに「いかり」と後ろからは読めると言われ納得しました。

### 3 1年間のパトロール活動を終えて

#### ① 感じられることや気づきについて書いてください。

- ・パトロール活動をしていて、地域委員の方や他の団体の方も参加されていて、子どもたちが大切にされているなと感じました。
- ・高齢の方々の協力が素晴らしく、子ども達も気軽に話せて守られていると思いました。次世代への引継ぎが大切だと思った。
- ・普段歩かない道を歩き、登下校を見守る方や清掃をしてくださっている方がたくさんいることを知りました。
- ・パトロール員になることで、どこを歩いていても、子どもの立場で危険箇所や行動を注意深く見るようになりました。また、研修も参考になることが多く、校区の皆さんにも伝えていきます。
- ・自治会の方々と接する機会が増え、周りには様々な人が住んでいるのだと気づきました。子ども達に関心を持ち、毎日の登下校を見守ることは大事だと思いました。
- ・地域の方々のあたたかい一言の言葉がとても印象に残っています。誰もが自分のことを気にかけてくれる、心配してくれると子ども達が感じてくれればと思います。
- ・パトロールって必要？という声をよくいただくのですが、何もなく平和であっても、それは地域の見守りの目から成り立つ平和であると思うので、やはりその必要性を理解してもらえようになりたいなあと思いました。
- ・小学生の学校を終えてからの自転車でヘルメットをつけていない子がほとんどなので気になります。中学生は通学の時はヘルメットを着用するとのきまりですが、帰りは着用していない子が多い。
- ・昔のような不良はいないけれど、本当に普通の子がいじめをしていると思うので、外見だけではなかなか判断できないことが多いです。
- ・パトロール活動中に気づきがあってもなかなか子どもたちに直接声をかけるというのは難しかった。もう少し小・中学校の先生方と連携が取れるような事ができると良いと思う。

#### ② 安全・安心の校区づくりの観点から、非行防止・青少年の健全育成について思うことを、ご記入ください。

- ・学校だけでなく、地域ぐるみで青少年を守っていかなければならないと思います。私の校区では子ども会全加入となっていて、役員は大変だと思いますが、とても有難いことだと感じました。
- ・まずは自分の子どもをよく見る事。何を考え、どのように行動しているか、どんなことに興味があるのか、やり過ぎず見守ることが大切だと思う。規則正しい生活をさせる事。
- ・まず大人が考え方や気持ちを変えていかないといけないですね。
- ・本日の話にもありましたが、大切なのは「環境」で、築いていく事が難しいのも「環境」だと思います。まずは周りの環境から考えていく事ができるような発信があると良いのではないのかと思います。
- ・本当は地域みんな一人ひとりが挨拶をかわし、お互い顔見知りというのが安全・安心なのだろうけど、近頃は隣の人の顔も知らない事が多くなっているのので、このような活動は必要だと思います。
- ・中学生で不登校の子が昼間うろろろしていたり…、という姿があると、小学生など小さな子に何と説明していいのかわからない。フリースクール等がもっとあるといい。
- ・老人や働いているお父さんにも参加してほしい。お母さんだけでは無理だ。パトロール用の光るベストなどが借りられると助かる。
- ・行政・学校・地域が活動していることが子ども達に伝わって、安全・安心なまちづくり（校区づくり）につながって欲しいです。

③ 4月以降の新たなパトロール員に伝えたい事を、自由にご記入ください。

- これまであまり地域に出ることが少なかったですが、これをきっかけに地域のことをより知ることが出来ると思います。
- 自分で気づいていない地域の方々の力を感じることが出来るので、楽しく参加して頂けたら良いと思います。
- 「やらなければ」と思わず、子ども達と触れ合って、楽しみながら、見守って頂ければと思います。
- 自分の町内（住んでいる近く）だけでなく、校区全体（校区内の、他の地域の方の意見を聞くことも必要と思う。）をパトロールすると良い。
- 面倒がらず参加すると、自分の知らない情報が入ってきてとても為になることを知って欲しい。
- 損や得の考えではなく、自分がこの町で暮らすにあたってできることは何かを考えて欲しい。

4 パトロール報告書受理状況（平成31年2月21日現在）は下記の通りです。

提出件数 180 件

危険箇所	9件	放置自転車	2件
ゲームセンター	1件	駐輪・駐車違反	1件
たまり場	9件	その他（不審者を含む）	3件
危険・暴走行為	2件	該当項目に○付けが無い	25件
喫煙	3件	異常なし	139件

※異常なし：全体の77.2% 該当項目に○付けが無いのも含めると91.1%

《報告事項の抜粋》 ※平成30年10月1日から平成31年2月20日までの報告書記載内容の抜粋

☆良かったこと

- 小学校の下校時間に合わせて立哨した。皆元気に挨拶してくれて、小学校の子どもたちは明るく元気な子どもたちだと感じた。
- 校区の皆さんが中央公園の清掃をしてくださっていて、こうやって地域のきれいさと安全が守られていると感謝の気持ちでいっぱいになりました。
- 小学校の校長先生より、地域の皆様の見守りのおかげで子どもたちも、安心して学校生活を送っていますと報告がありました。
- 青色パトロールカーで巡回していると、中学生が出てきて挨拶をしてくれる。やさしい子どもたちが育っていると思いますと報告がありました。

☆危険箇所

- 内野郵便局前 内野5丁目から通りに出てくる脇道に擁壁ができ、下校時の児童が通過する際、車両の視認性が悪くなったためかなり危険です。
- 子どもたちの登校時間は車両進入禁止になっています。子どもたちもその時間帯は車が通らないと思っており、道路の真ん中を歩いています。車が標識を守らず、けっこうなスピードで侵入してくる

ためヒヤッとします。近くの交番にお尋ねしましたら車の多い時間帯は取締りを行っており、違反者は年々減っているとのことでした。子どもたちには自動車。オートバイ、自転車など通学時の危険について自覚してもらい、安全に行動できるよう指導していく必要があると思いました。

### ☆ゲームセンター

- ・18時過ぎても、子ども達だけで遊んでいる数名のグループがおり、店員の方に声かけ、帰るよう促していただきました。



### ☆たまり場

- ・中央公園 ゴミ拾いを兼ねてパトロール。中学生4人が駐車場付近で喋っていた。ゴミ拾いをしながら「ゴミはないですか！大丈夫？」と声かけ「有りません！大丈夫です」と返事がありました。
- ・公園に中学生5名が花火をしていた。帰るよう中学校の先生に声かけをもらった。
- ・夕方4時頃公園に行ってみると中学生4～5人が自転車で集まって飲食していましたので片付ける様注意して帰りました。21時頃行ってみると、片づけていないので自分で片づけました。自治会・駐在所（タバコの吸い殻）と話し合っ対策を話し合っています。

### ☆痴漢・不審者

- ・10月第1週目に〇〇2丁目で学校帰りの2年生の女子がマスクをかけている人に声をかけられ、連れていかれそうになった。



### ☆喫煙

- ・道に広がり、歩きタバコをしながら話している大学生がいました。この道は小学生の通学路でもあるので、大学生にもマナーを守ってほしいと思いました。

### ☆自転車に関する事

- ・無灯火ゼロ運動 各ポイントに8～10人ずつに分かれて自転車の無灯火を呼びかけ、無灯火の方には簡易ライトを配布しました。灯火をお願いしても、無視し猛スピードで去っていく方も数人ありましたライトの明るさが足りない自転車が気になりました。並んで走る自転車も、歩道にはみ出して危ないと思いました。
- ・自転車のルールについて、左側通行を守れていない大人が（特に年配の方）多いと感じました。
- ・公園駐車場北側に、放置自転車1台があった。墓地に放置自転車有、交番に届出をした。
- ・小学生の自転車が並列運転（4～5人）し、道をふさぐように移動していた。

### ☆駐輪・駐車違反

- ・公園の駐車場に多くの車が止まっている事に気づく。21時～22時55分交番に伝える

## ☆その他

・公園で入り口に止めてある自転車を時々高校生くらいの男の子が原付バイクで自転車をふさぎ、わざと子どもたちが出られないようにして「のけてください」というと逆ギレされる。

・公園の外灯が植木のため見通しが悪く、住民（組長）からも伐採してほしいとの声が上がっている。

※ 現地調査を実施（写真撮影，報告書作成し，関係課に対応を相談，後日植木を伐採し解決）

※ 公園の植木2本伐採していただきありがとうございました。

公園の外灯がすっきりと明るくなりなした。

・カラオケ店，ボウリング場，コンビニに立ち寄り，情報収集や中学生に深夜利用をさせないようにお願いしました。ネットカフェを夏休み利用しているようで，お店側にも個室やネットを利用させてないとのことだったが，親も子どもの行動に注意を払いたいと思いました。

・青育連・町内会など割り当ての日に都合が悪い方に代わり青パト乗車しています。

現役の方々にとっては負担になると思いますので私のような時間の都合がつけやすいものが役に立てれば幸いです。



・拍子木を鳴らし，外出の際は戸締りや火の始末など注意して頂くよう呼びかけました。

## ☆声かけ

・9月22日 夜間声かけ 23:00～24:30（夜間個人パト）〇〇大学近くのコンビニにいた少年（男3人，女2人）たちに声かけをしました。最近夜間外での子どもたちを見かけなくなりました。

・地域住民とも挨拶をかわし子どもだけでなく防犯にも役に立てればと考えています。

## ～今後のパトロール活動について（お願い）～

- ① 報告書を書いているが提出されていない方，どうぞご提出お願いいたします。
- ② 皆さま，寒い中でのパトロールですが，可能な範囲でのパトロールを何卒よろしく申し上げます。
- ③ 校区では様々な（定期的）パトロールの機会があると思います。地域パトロールの機会に限らず，日常生活の中で感じたことや気付きなど，“生活者”としての視点で，地域の状況を把握されていることと思います。“異常なし”でも，気づいたことをパトロールの事績として残していただきたく，報告書の提出を是非ともお願いいたします。
- ④ 校区の状況は日々，変化します。継続したパトロール活動及びその意識は，非行防止・青少年健全育成活動につながり，ひいてはそれが「安心・安全のまちづくり」につながるものと思います。早良区役所に提出いただいた報告書は，地域支援課で回覧し情報の共有を図っています。危険個所の改善や施設・設備の設置については調査・検討の上，改善・設置となります。